

平成 28 年度第 1 回（一社）日本生物物理学会理事会議事録

日時：2016 年 6 月 18 日（土）14：00～17：00

場所：大阪大学大学院生命機能研究科 ナノバイオロジー棟 3 階会議室

出席者：理事総数 18 名 出席理事 16 名（代表理事を含む）

代表理事（会長）	中村 春木	理事（副会長）	高橋 聡
理事（副会長）	永井 健治	理事	新井 宗仁
理事	石島 秋彦	理事	内橋 貴之
理事	大上 雅史	理事	佐甲 靖志
理事	佐藤 竜馬	理事	高田 彰二
理事	寺沢 宏明	理事	中井 孝尚
理事	根岸 瑠美	理事	広瀬 恵子
理事	古谷 祐詞	理事	光武 亜代理

監事総数 2 名 出席監事 2 名

監事 片岡 幹雄
監事 有坂 文雄

オブザーバー：

邦文誌編集委員長	神取 秀樹
ホームページ編集委員長	北尾 彰朗
平成 28 年度年会実行委員長	豊島 陽子
平成 29 年度年会実行委員長	山縣 ゆり子
平成 30 年度年会実行委員	須藤 雄気

陪席者：

学会事務局 向井 牧子

議長：代表理事（会長） 中村 春木
議事録作成者： 理事 佐藤 竜馬
理事 大上 雅史

報告事項および審議事項

報告事項：

1. 定時社員総会の報告 (中村) 資料：なし
2. 平成 28 年度年会準備状況 (豊島) 資料：なし
3. 平成 29 年度年会準備状況 (山縣) 資料：報 3
4. 平成 30 年度年会準備状況 (須藤) 資料：報 4
5. 出版委員会報告 (永井) 資料：報 5
6. 科研費活動報告 (永井) 資料：報 6
7. 男女共同参画・若手支援委員会報告 (高橋) 資料：なし
8. 企画啓蒙活動報告 (広瀬・根岸) 資料：報 8
9. 日本学術会議 生物物理学・IUPAB 合同分科会について
(中村) 資料：報 9
10. 平成 29・30 年度会長候補者意向聴取選挙・代議員選挙結果報告
(須藤) 資料：報 10
11. 会員除籍と会員数の報告 (古谷・光武) 資料：報 11
12. IUPAB・ABA 関連報告 (永井) 資料：報 12
13. Application of Biophysics の対応に関する報告
(永井) 資料：報 13
14. 地区報告
 - 15-1) 北海道支部 (中村) 資料：報 14-1
 - 15-2) 中国四国支部 (須藤) 資料：報 14-2
15. その他

審議事項：

1. 分子生物学会と生化学会の合同大会について
(中村) 資料：議 1
2. 平成 31 年 (2019 年) 年会開催地について (中村) 資料：議 2
3. 2023 年 IUPAB 主催の congress (IBC) 立候補について
(中村) 資料：なし
4. 出版委員会関連議題
 - 4-1) BPPB 誌報告と提案 (永井) 資料：議 4-1
 - 4-2) BPPB ページ改変 (北尾) 資料：議 4-2
5. 第 5 回 BPPB 論文賞 受賞論文の承認について

- | | |
|---------------------|-------------|
| | (永井) 資料：議 5 |
| 6. 男女共同参画若手支援関連議題 | (高橋) 資料：なし |
| 7. セミナー派遣事業について | (広瀬) 資料：議 7 |
| 8. 年会における国際交流促進について | (中村) 資料：議 8 |
| 9. その他 | |

定足数の確認：

議事の経過の要領およびその結果：

理事会の審議に先立ち、会長より、定足数を満たしており、定款第六章第三十二の規定により理事会の成立することが報告された。会長が議長に就き、開会を宣言し審議に入った。

報告事項：

1. 定時社員総会の報告（中村）資料：なし

中村会長から定時社員総会について報告があった。

第 1 号議案 定款の変更について、第二条「この法人は、主たる事務所を大阪府吹田市に置く」を「この法人は、主たる事務所を京都府京都市に置く」に変更することで可決された。第五条「代議員の任期は代議員選挙後の最初に開催される社員総会の終結のときから」を「代議員の任期は代議員選挙後の最初に開催される定時社員総会の終結のときから」に変更することで可決された。第 2 号議案 平成 27 年度事業報告について可決された。第 3 号議案 平成 27 年度の貸借対照表およびその計算表について可決された。

2. 平成 28 年度年会準備状況（豊島）資料：なし

豊島年会実行委員長からつくば年会の準備状況について報告があった。

2016 年 6 月 20 日（月）から年会の参加および発表登録を受付開始。シンポジウムについては前回の理事会で承認いただいたシンポジウムで開催する。時間および会場は現在調整中。2016 年 6 月 27 日ごろ公開予定。BPPB 論文賞などの賞の受賞が決定次第、順次アップロードする。プログラムの作成は 2016 年 8 月 20 日ごろから開始し 2016 年 9 月 5 日締め切りとする。それよりも前の段階で公開可能である情報は年会 HP で公開する。宿泊の手配について日本旅行の千葉支店が窓口となりホテルの宿泊予約を受け付ける。つくばのホテルの客室（ホテル）を約 100 名分確保済み。企業側（AMED）からランチョンセミナーの様子を録画およびネット配信したいという旨のお願いがあった。録画および公開を許可するかを審議した。その場で映すと質問した方の顔が映ってしまうためそのような場面

の録画は控えていただく。または予めネットで公開されるということを出席者に通知する。演者と質問者に了解を得ることを基本とする。今後を見据えて本年会では試験的に一社のみで開催とする。学会会場に特定の会場では録画および情報の一般公開が行われるという旨の注意書きを貼る必要がある。以上の意見を元に開催することで承認された。キャリア支援説明会について、キャリアエージェントの方（株式会社レゾナンス）と話をする機会を設ける。会場は2日間で80名程度収容可能な会場で開催予定。開催日は年会2日目、3日目（1日目は若手シンポジウム）。

3. 平成29年度年会報告（山縣）資料：報3

山縣年会実行委員長から熊本年会の準備状況について報告があった。年会開催期間中の宿泊先として会場周辺ホテルはほぼ営業しているが、業者を通して400室程度事前に用意する予定である。年会会場（熊本大学）については問題なく使用可能。九州支部には約90名程度の正会員がいるため、そのなかから25名程度に実行委員をお願いする予定。現在の状況で開催は可能と考えているため予定通り開催する。

4. 平成30年度年会開催準備報告（須藤）資料：報4

沈年会実行委員長に代わり、須藤氏から岡山年会の準備状況について報告があった。実行委員長として沈建仁氏、副実行委員長に須藤雄気氏が選出された。実行委員に山下敦子氏、成瀬恵司氏、竹居孝二氏、井出徹氏、守屋央朗氏、松浦宏治氏、菅倫寛氏、秋田総理氏、梅名泰史氏、竹田哲也氏、井上剛氏、表弘志氏、塚本卓氏、安井典久氏、佐藤恵太氏の14名が承認された。役割分担について、会場：山下氏・井出氏、懇親会：須藤氏・守屋氏、プログラム：竹居氏・表氏、広告：成瀬氏・井上氏、庶務：須藤氏・松浦氏に決定した。会場には岡山大学津島キャンパスを予定している。会期は案1：平成30年（2018年）9月15日（土）－9月17日（月・祝）、案2：平成30年（2018年）9月22日（土）－9月24日（月・祝）を予定している。会場の観点から、口頭がメインになる予定。市民講演会は年会開催期間中に50周年記念体育館で行う予定。

5. 出版委員会報告（永井）資料：報5

永井氏より出版委員会について報告があった。2016年1月より生物物理誌の編集委員長が神取秀樹氏、副委員長が秋山修志氏に決定した。委員に6名が加わった。第1回和文誌編集委員会を2016年3月30日に開催した。第2回和文誌編集委員会は2016年6月30日に開催予定。電子版になった生物物理誌がいつ公開されたかがわかりにくいため、生物物理誌が学会HPに公開されたと同時に学会員全員に

メールでお知らせする。第 3 回和文誌編集委員会は年会時に開催予定。無料キャンペーンを始めて一ヶ月経つが効果が出ていないため、何度か連絡を入れる予定。また海外からの投稿を増やすために海外への発信方法を今後検討していく。無料キャンペーンは 2016 年度・2017 年度の 2 年間で、各年度掲載が決定した先着順（各年度 5 編程度）に適用する。掲載料（会員 30,000 円）、ページチャージ（1 ページにつき 8,000 円）が無料となる。BPPB 誌の編集委員の見直しを行い、Florence Tama (Nagoya Univ.) 氏、Jian-Ren Shen (Okayama Univ.) 氏の就任が承認された。編集委員による「特集」「追悼号」として 7 編を予定している。魅力的な英文要旨をめざして（アブストラクトを魅力的に）、現在 1 件を掲載中。前回理事会で追加 2 件分の予算（8 万円）が承認された。2 件目として須藤氏の論文を取り上げることで著者の了承も得られた。第 3 回 Biophysics and Physicobiology Editors' Choice Award 選考が終了し、以下の 4 件を受賞作とした。

- i. "Lever arm extension of myosin VI is unnecessary for the adjacent binding state", K. Ikezaki, T. Komori, Y. Arai and T. Yanagida.
- ii. "Electrophysiological characteristics of IB4-negative TRPV1-expressing muscle afferent DRG neurons", Chih-Cheng and Yi-Wen.
- iii. "Specific interactions between alkali metal cations and the KcsA channel studied using ATR-FTIR spectroscopy", Y. Furutani, H. Shimizu, Y. Asai, S. Oiki and H. Kandori.
- iv. "Structures of the Troponin Core Domain Containing the Cardiomyopathy-Causing Mutants Studied by Small-Angle X-ray Scattering", T. Matsuo, S. Takeda, T. Oda and S. Fujiwara

6. 科研費活動報告（永井）資料：報 6

永井氏より科研費活動について報告があった。

実績報告書を 2016 年 5 月 30 日に学術振興会へ報告済み。取り組みの実績として、「投稿数増加のための取り組み」、「編集体制の強化の取り組み」、「国際体制強化の取り組み」、「PubMed Central への収録を目指して申請を行い、掲載の目途がたった。」

7. 男女共同参画・若手支援委員会報告（高橋）資料：なし

高橋男女共同参画若手委員長より男女共同参画・若手支援委員会について報告があった。

年会シンポジウムについて、テーマ「大学院生・研究者のための自己分析 - キャリアをデザインするために - (仮)」、養命酒・TPL (Tokyo. Ph.D. Lounge) に所属の筒井康貴氏に

講演をお願いしている。講演後、参加者の自己分析を行う。キャリア支援説明会との兼ね合いで年会 1 日目のランチョンセミナーの時間に開催する予定。筒井氏は現在生物物理学会員ではないため旅費および謝礼金を出す予定である。学生発表賞について、フラッシュトークを行ったのちポスター発表を行う（それぞれで審査する）。審査員は会場毎に 10 名とする。1 日の間に審査員が審査する対象は 4 件程度とする。各会場の責任者、副責任者は決定済み。審査員は現在選考中（6 月中には決定予定）。フラッシュトーク、ポスター発表、応募要旨等はすべて英語とする。若手奨励賞について、応募書類の規定が明確に決まっていなかったため、規定を設けた応募書類を作成した。一次審査および二次審査を行う審査員それぞれ 10 名ずつ決定済み。プログラム作成段階までに招待講演者は決定せず、年会 HP で発表する。

8. 企画啓蒙活動報告（広瀬・根岸）資料：報 8

広瀬氏より企画啓蒙活動について報告があった。

海外生物物理学学会へのポスター送付について、昨年度オーストラリア生物物理学学会に一家に一枚ポスター（英語版）を送付し配布していただいた。2016 年 2 月から 3 月にアメリカ生物物理学学会年会に一家に一枚ポスター（英語版）を送付し配布していただきたいという旨の連絡をしたが、先方からの回答が得られなかった。今後の啓蒙活動として小中高に学会から講師を派遣していくのはどうかと考えている。

9. 日本学術会議 生物物理学・IUPAB 合同分科会について（中村）資料：報 9

中村会長より日本学術会議 生物物理学・IUPAB 合同分科会について報告があった。内閣府へ大規模研究計画を応募した。提案者は難波啓一氏。

10. 平成 29・30 年度会長候補者意向聴取選挙・代議員選挙結果報告（須藤）資料：報 10

選挙管理委員長の寺北氏に代わり須藤氏から平成 29・30 年度会長候補者意向聴取選挙・代議員選挙結果について報告があった。

2016 年 6 月 13 日締め切りで平成 29・30 年度会長候補者意向聴取選挙が行われた結果、次期会長候補として神取秀樹氏が選出された。平成 29・30 年度代議員選挙結果、55 名の方が選出された。会長候補に選出された神取氏が現在、編集委員長を担っており会長と兼任になってしまう。会長と編集委員長の兼任については、兼任でも良いか、神取氏と調整する。しかし、現在の編集委員会規程に職を辞職できる等の規程がないため、仮に辞職を申し出た場合は辞職できるように今後規程の改定が必要になる。定款第五条 4 に「理事また

は理事会は、代議員を選出することはできない。」とあるが、今回は事務局の設定ミスにより、理事も投票できる状態でシステムが稼働した。開票時に、理事からの投票は差し引いて集計した。

11. 会員除籍と会員数の報告（古谷・光武）資料：報 11

光武氏より会員除籍と会員数の報告について報告があった。

2016年3月の会費納入案内配信後、除籍候補者の中で滞納会費をご納入下さった方：正会員1名、学生会員2名。退会：正会員1名、学生会員1名。最終的な増減として前年度から101名が減った。

12. IUPAB・ABA 関連報告（永井）資料：報 12

野地氏に代わり永井氏より IUPAB・ABA 関連について報告があった。

「シリーズ生物物理学研究から生まれた新技術紹介」の英語ページのリンクが一部完了。The Biophysical Society of Japan (BSJ) のリンクが日本語のページにリンクが貼ってあるため、英語のページに修正。2023年 IUPAB 主催の congress について、締め切りが年内であるため本年度応募予定。BSJ の 2nd 立候補に関して、立候補するか否か審議中。開催地は沖縄を予定していたが種々の理由により安全面の問題が提起された。

13. Application of Biophysics の対応に関する報告（永井）資料：報 13

永井氏より Application of Biophysics の対応について報告があった。

生物物理学研究から生まれた新技術が現在 5 件程度しかないため、向井氏よりメールを会員に送っていただいた。安永卓生氏から自推でも構わないかとの問い合わせがあり了承した。ご推薦いただく技術と製品名：画像処理プラットフォーム (Eos/pione)、実用化したメーカー名：九州工業大学

14. 地区報告

15-1) 北海道支部 (中村) 資料：報 14-1

15-2) 中国四国支部 (須藤) 資料：報 14-2

中村会長より北海道支部の支部報告があった。

2015年3月13日に2015年日本生物物理学会北海道支部例会を開催。

楯氏の代わりに須藤氏より中国四国支部の支部報告があった。

2016年5月28日、29日の二日間、第8回中国四国支部大会を開催した。今回から学生に英語で口頭発表していただいた。大学院生の時から、英語の口頭発表する訓練をす

るよい機会になればよいと考えており、今後も支部大会での重要なイベントとして継続する。支部によっては予算が余っているところがあり、問題ではないかということがあったため各支部から会計報告を毎年提出していただけたらどうか。日本生物物理学会と支部会は別団体であるため一義的には関係がない。しかし、日本生物物理学会が補助金を出している以上、活動状況の確認は必要。補助金を出す際に報告していただいているが、社員総会の際に各支部から会計報告を提出していただく案も今後考える。

審議事項：

1. 分子生物学会と生化学会の合同大会について（中村）資料：議 1

熊本年会を開催できるということを前提にして協賛を検討中とした。先方からは、協賛の場合でも一つのシンポジウムを生物物理で開催して構わない、との話があった。合同大会に協賛という形で参加する予定であり、シンポジウム枠を希望する旨を先方に伝えることで承認された。

2. 平成 31 年（2019 年）年会開催地について（中村）資料：議 2

今後の年会の候補地として、近畿（大阪、奈良）、北関東（群馬）の二地域を候補地として具体的に可能性を考えていく。

3. 2023 年 IUPAB 主催の congress（IBC）立候補について（中村）資料：なし

招致自体は上手く行っている。中国生物物理学会との良好な関係を今後も築いていきたいと考えているため、開催地を今後検討していく。具体的な内容に関しては次回の理事会で決める。

4. 出版委員会関連議題

4-1) BPPB 誌報告と提案

（永井）資料：議 4-1

Associate Editor としてジョーンズホプキンス大学の Jie Xiao 氏、ソウル国立大学の Sungchul Hohng 氏の 2 名を推薦したい。上記 2 名を推薦することで承認された。J-STAGE にグラフィカルアブストラクトを掲載したい（J-STAGE に申請が必要であるが費用はかからない）グラフィカルアブストラクトを掲載することで承認された。Crosscheck 導入について、J-STAGE で導入しているソフトを使用することで類似率が高い文章のレポートを得ることができる。導入について承認された。

投稿規定の変更の提案、「掲載された論文の Copyright に関する記述を明確かつ具体的にする」、「BPPB に掲載された論文の引用方法が示されていないなかったので、投稿規定

の中に BPPB を引用するサンプルを記載する」。上記の変更について承認された。「特集を集めたページ」と「アーカイブページ」のホームページ改変について、改変にあたり 2 件で 21,600 円かかるがご承認いただけないか。上記の予算について承認された。

4-2) 学会ホームページ改変

(北尾) 資料：議 4-2

ホームページの整理を現在進めている。ニュース欄に出たニュースはすべて、事務局が Facebook に投稿する。Facebook と Twitter は連携されており、Facebook に投稿すると自動的に Twitter にも投稿される。生物物理のキーワードに該当する記事を適宜書いていただく（現在 3 分の 2 程度は執筆済み）。年会の日程が例年より遅いが、例年と同じ日程で行うことで承認された。

5. 第 5 回 BPPB 論文賞 受賞論文の承認について (永井) 資料：議 5

第 5 回 BPPB 論文賞 受賞論文が下記のように決定した。

Y. Sudo, H. Terashima, R. Abe-Yoshizumi, S. Kojima and M. Homma,
"Comparative study of the ion flux pathway in stator units of proton- and sodium-driven flagellar motors", BIOPHYSICS Vol.5 pp. 45-52 (2009).

上記の論文が受賞論文として承認された。

6. 男女共同参画若手支援関連議題 (高橋) 資料：なし

若手シンポジウムで講師に謝金を出したいがご承認いただけないかという申し出があり承認された。

7. セミナー派遣事業について (広瀬) 資料：議 7

「小中高へのセミナー派遣事業」の立ち上げについて、学校に講師を派遣して生物物理の面白さを広めてもらう。小中高にどのように周知していくかは今後考えていく予定である。社会に貢献した方に学会から賞を設けるのも念頭に置く。今後広瀬氏を代表として声かけをしていくことで承認された。

8. 年会における国際交流促進について (中村) 資料：議 8

中国生物物理学会との連絡がとれ、先方から推薦があった Xiyun Yan 氏 (Institute of Biophysics, CAS), Sarah Perrett 氏 (Institute of Biophysics, CAS), Chu Wang 氏 (Peking Univ., Department of Chemical Biology) の 3 名を本年のつくば年会での BPJ-BPC ジョイントシンポジウムの BPC 側の講演者として招待する。セッションは年会

1 日目に開催する。上記の内容で承認された。

台湾生物物理学会が 2016 年 5 月 21 日に開催され中村会長が参加し宣伝活動を行った。
韓国とオーストラリアからの招待講演者の滞在費を日本生物物理学会が「グローバル化推進経費」の枠内で支払うことが承認された（予算の申請が必要）。

9. その他

特になし。

連絡事項：

2016 年 9 月 3 日（土）

平成 28 年度第 2 回日本生物物理学会理事会：12:00～

場所：大阪大学産業科学研究室・永井研究室、東京大学分子細胞生物学研究所本館
206 号室ほか（TV 会議）

その他の発議を求めたところ、格別なしと認められたので、議長は 17:00 に閉会を宣言して散会した。

上記の議決を明確にするため、定款第六章第三十三条の規定によりこの議事録を作成し、代表理事及び監事が次に記名押印する。

平成 28 年 7 月 6 日

一般社団法人 日本生物物理学会 平成 28 年度第 1 回理事会

代表理事 中 村 春 木（印）

監事 片 岡 幹 雄（印）

監事 有 坂 文 雄（印）